

## 熊本大学附属図書館架蔵 特殊文庫の紹介(一)

## 永青文庫蔵細川家古文書のこと

松本 寿三郎

本学附属図書館に架蔵する特殊資料のうち最も著名なものが表題の細川家文書であろう。この文書は財団法人永青文庫の所蔵するもので、永青文庫の寄託によって本学に架蔵し閲覧に供しているのである。この古文書類は旧熊本藩主細川家および熊本藩関係のものであり、本来は熊本城内に設けられた諸役所に伝来したものであった。江戸時代は俗にいう文書時代であり先例を重んじた時代であったから、各役所には事務の指針となる例書・先例を参照するために書類をとどめておきことあるごとに参照していた。役所にとって欠くことのできないものであった。明治維新によって藩体制は崩壊し、新政府は検地帳や徴税関係の書類を継承したが、藩政にかかわる書類の多くは廃棄された。

熊本藩の古文書類は、旧藩主細川家の北岡邸にうつされ、「お文庫」「川端お倉」「御神庫」「御宝庫」「七間御蔵」の五つの倉庫に厳重に架蔵されており、『北岡文庫』とよばれていた。文書に『北岡文庫』の押印があるのはそのためである。明治以後熊本市は市街の大部分を焼失した西南戦争・太平洋戦争に見舞われたのを始め、幾多の火災、水害にさらされたが、山懐に抱かれた北岡の地でこれら古文書は保存され、昭和25年『永青文庫』として世人の目にふれることとなった。財団法人永青文庫は、北岡文庫に所蔵する古文書を始め、細川家に伝来する美術品・古文書・典籍類を広く一般に公開することを目的として成立されたものである。所蔵品のうち国宝・重要文化財に指定されている美術工芸品の多くは東京都文京区目白台の永青文庫で保存され展示されている。

本学附属図書館に寄託されているのは、国文関係の書跡や典籍および旧熊本藩関係の文書・古記録類である。この文庫は上妻博之氏によって『北岡文庫蔵書目録』として整理されたが、約6,000点(冊数にして20,000冊を超える)に及ぶものである。古文書・記録は倉の名称と書架の配列番号によって分類されており、この分類は本学附属図書館でも踏襲されている。永青文庫蔵細川家古文書のうち文学関係の貴重書については荒木尚教授が前回までの『東光原』に四回にわたっ

て述べておられるので、大方の内容を想像できると思うので、歴史史料について紹介しよう。

この膨大な古記録類は熊本藩藩政のすべてを網羅するものであるかという点、必ずしもそうではない。細川忠利は父忠興のあとをついで小倉城主になり、熊本に移封されたのであるが、忠興時代の藩政史料は本人とともに八代城にあり、第四子立孝の家(宇土細川家)に伝来された。したがって熊本細川家には忠利以後の小倉・肥後の藩政史料が残ったことになる。

宝暦期以後の藩政は機密間(総務)・役人選挙(人事)・勘定方(会計)・御郡方(農政)・寺社方・類族方(キリシタン取締り)・刑法方など13の部局があったが、機密間日記・奉行書日帳・日帳・日記など奉行所関係、いろは別先祖帳・藩臣閥閥録草稿・青龍寺以来の面々子孫・古奉公附など人事関係、口書から誅伐帳にいたる裁判記録、異国船御手当一件・尊攘録・長洲御征伐記など幕末関係、内政については初期藩政を分類した部分御旧記や触状控、細川家の自家記録などが濃厚に残されており、現在「覚帳」として同一の分類をしているものの中には、郡方のものが圧倒的に多いが、当用方、勘定方など諸役所のものも含まれている。「覚帳」は村々で解決できなかった事件について奉行所に指示を仰いだもので、地方役人の功績評価の書類である「町在」とともに、郡村支配の実態を如実に伝えるものとして高く評価され、近年熊本県内の市町村史編纂がさかんになるにつれて利用されている。

このほかお抱え絵師によって描かれた動植物の図鑑や幕府の命をうけて作成した国絵図、領内の川絵図などは他では見ることのできない逸品である。

本図書館では昭和59年以来毎年特殊資料展を開いているが、毎回永青文庫の新しい資料を展示している。題目を挙げてみる

1. 永青文庫資料にみる細川氏の入国
2. 細川重賢没後二百年記念
3. 細川幽斎関係文学書
5. 永青文庫史料による熊本城図展
6. 永青文庫史料による近世熊本の町的生活

7. 細川家のローマ字印
8. 太平記の世界
9. 信長と幽斎
10. 細川重賢の文事
11. 肥後の博物学
12. 『永青文庫』の文学書
13. 絵図でみる細川氏の領国支配

永青文庫資料展はこれできものではなく、いまさらながら永青文庫所蔵品の多様性に驚くのである。貴重な藩政史料であるがあまりにも歴大であり、現在まで印刷されたものは次に示すようにごく一部に過ぎない。

- 東大史料編纂所編  
『大日本近世史料—細川家史料1～15』
- 出水神社発行『出水叢書1～12』
- 熊本大学史料刊行会編  
『熊本大学史料叢書 藩主裁可文書一』
- 森田誠一編『細川家旧記・古文書分類目録 正編』
- 細川藩政史研究会編  
『細川家旧記・古文書目録 続編』
- 熊本県教育委員会編『細川家文書(中世篇)』

- 熊本県教育委員会編『細川家近世文書目録』  
上記のほか『熊本市史』『玉名市史』『鹿央町史』『菊鹿町史』史料編に収録している。

永青文庫の利用法(学外の研究者の場合)

永青文庫蔵細川家文書は寄託の古文書であるから利用するには、まず東京目白台の永青文庫に閲覧書目を申し出、写真撮影については別個に許可を得る必要がある(書式自由)。許可が得られればその許可書を添えて、閲覧資料名のほか閲覧希望日時等を明記した利用願いを事前に附属図書館長宛に提出して閲覧の許可を得ること。

また附属図書館の古文書閲覧は月曜から金曜までに限られているのであらかじめ承知しておく必要がある。前もって閲覧の日程と閲覧書目録を提出しておけば、手続きに時間をかけずに閲覧できて好都合である。

(第4木曜日は休館)

永青文庫の所在地

〒112 東京都文京区目白台1-1-1

財団法人 永青文庫 (TEL 03-3941-0850)

(まつもと すみお 文学部教授 国史学)

<資料紹介>

## 最近購入の資料から

熊本藩家老米田家文書 10点

(平成8年度大型コレクション)

・米家舊記抄	96冊
・有吉先祖以来覚書	3冊
・妙解院様御代御軍役記	2冊
・大阪御陣之節御人数被指出帳	1冊
・御納戸ニ納居候舊記抄	4冊
・米家舊記抄	13冊
・米田家傳録	6冊
・御納戸要録	1冊
・米田監物宛肥後藩士書翰及覚書類	380通
・肥後藩士海防論意見書類	18綴

蒙古襲来絵詞 全2巻

帝国議會衆議院委員會議録 (継続)

「昭和編」90巻～122巻

帝国議會貴族院委員會議録 (継続)

「昭和編」64巻～86巻

帝国議會貴族院委員會議録 (継続)

第1回～第3回

英国公文書館所蔵資料 マイクロフィルム版

(両大戦間英国大蔵省: 経済不況および経済金融)

Part. 1.2

朝日新聞復刻版 明治編、大正編

大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録

研究者・研究課題総覧 (1996年版)

※上記資料は中央館に配架していますのでご利用ください。